

## 巻頭言

# 令和4年 年頭所感

経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課

課長 高木美香



令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

印刷産業の皆様におかれましては、平素より弊省の政策にご協力を賜りありがとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスとの厳しい戦いを余儀なくされた一年でした。足下では、国内の感染者数は落ち着きを見せておりますが、新たに報告されたオミクロン株が多く、多くの国で確認されるなど、新型コロナウイルスとの戦いは続いています。しかし、今こそ、新型コロナウイルスによる危機を乗り越えた先の新しい社会を見据え、着実に成長の種をまいていく必要があります。

未来社会を切り拓く「新しい資本主義」の実現には、まずは、分配の原資となる力強い成長を実現することが必要です。経済産業省としても、グリーンやデジタル、経済安全保障などの社会課題に応じた積極的な政策対応の在り方について、「経済産業政策の新機軸」として形にしていまいります。

経済産業省が令和元年度に実施した印刷産業における取引環境実態調査では、今後の印刷産業の底上げの方向性として、印刷業の枠を超えて地域において新しい価値を創出していくことや印刷産業全体としての生産性向上と付加価値創出の実現を目指すことが取りまとめられました。

その実現のため、「印刷DX推進プロジェクト」として、J-LOD補助金も活用いただきながら、印刷の受発注から生産管理の業務の流れを自動化する印刷DXのシステムの開発・実装を進めていただいております。本システムが活用されることで、生産性向上だけでなく、各社の強みを活かした新市場開拓や新たなサービス開発により、事業領域の拡大にも繋がっていくことと思っております。

また、サプライチェーン全体の下請取引の適正化と付加価値向上に向けて業界団体による自主行動計画の策定が重要となっております。今年度の政府の「成長戦略実行計画」においても、業界の自主行動計画の策定を加速させることとしています。印刷業界においても自主行動計画の策定に向けて取り組んでいただいております。経済産業省として、しっかりサポートさせていただきます。

印刷産業は全国に2万を超える事業所があり、地域の顧客のニーズや実情に合わせて創意工夫を重ねて、様々な事業展開をされており、まさに日本の産業を支え、地域を支え、国民生活を支える大事な産業です。今後も地域から日本を元気にしていただくことを期待しております。

今年は、十干十二支の「壬寅（みずのえとら）」です。これは、「冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれること」を表しているそうです。春の来ない冬はありません。厳しい状況が続く中にあるからこそ、危機を乗り越えた先の未来がその分、明るいものとなるよう、経済産業省としても職務に邁進してまいります。

最後になりましたが、皆様のご多幸と事業のますますの御発展を心より祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

# 2022年 年頭所感

(一社) 日本印刷産業連合会  
会長

藤森 康彰



令和4年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は一昨年に続き、新型コロナウイルス感染症に翻弄された年となりました。相次ぐ感染のピークに医療崩壊が取りざたされ、ワクチン接種の進捗と副反応がもっばらの話題となりました。

印刷業界を取り巻くビジネス環境は、度重なる緊急事態宣言の延長により経済活動が滞り、多くの産業を顧客とする印刷業界にも甚大な影響を与えました。

明るい話題としては、感染拡大防止の観点から無観客で開催された東京2020オリンピック・パラリンピックがあります。日本のメダルラッシュが、沈みがちなコロナ禍の世に光明をもたらし、限定的ではありますが、印刷業界にも明るい話題を与えてくれました。

また、地球環境保全に対する世界的な危機感の高まりと規制強化の動きが加速し、我が国も『2050年カーボンニュートラル宣言』が発せられ、多くの産業界が志を一つにしました。11月のCOP26では、更に踏み込んだ環境問題への対応が要求されたため、印刷業界もより積極的に取り組む必要が出てきました。

一方、世界的なサプライチェーンの分断により印刷関連諸資材が高騰し、一部の資材の供給が逼迫する事態ともなりました。

このような状況の中、日印産連ではSDGsを活動の基本に据え、事業計画に則り事業を推進し

ております。

昨年は、新型コロナウイルス後の業界の回復・発展を目指し、『アフターコロナプロジェクト』を推進しました。その成果を冊子『Change Together』にまとめ、9月に会員10団体の各社にお届けしております。

プロジェクトでは、コロナ禍という危機を“変化によるチャンス”と捉えて経営改革に取り組む人々の姿が浮かび上がり、印刷業界の底力を感じました。一方で、従来の商慣習から脱却できない印刷業界の実態も改めて認識することになりました。

冊子の終わりには、各社と日印産連がそれぞれ取り組むべきことを、提言として掲げています。今後は、この提言を具体的に推進するための組織や仕組みを再構築し、コロナ禍によってパラダイムシフトした新しい社会の枠組みの中で、『Change Together』、新たなチャンスを見出し、発展する業界に変わりたいと思います。

日印産連は、本年も『アフターコロナプロジェクト』の提言を踏まえ、従来にも増して会員10団体との連携を強化し、賛助会員の皆様共々SDGsに則った活動を推進してまいりますので、引き続き皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 2022年 年頭所感

全国グラビア協同組合連合会 会長  
関東グラビア協同組合 理事長

田口 薫



新年、おめでとうございます。日頃は全国グラビア協同組合連合会の活動にご理解ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新年のあいさつに、いつもながら型破りのお話を申し上げ恐縮です。

皆さん今、幸せですか？ 私は長くこの仕事をやっておりますが事態が悪い方向に向かっていると思います。印刷業界は1997年をピークとして売上高合計がかつての1/2になりました。日本にデフレが定着してから色々な業界で同様の現象が起きています。今、地球温暖化でサステナビリティ（持続性）が問われていますが、私共、軟包装グラビアもこのままでは破滅的な事態に陥ることになるかもしれません。これは昨年11月に開催された全国グラビアの理事会でのメンバーの共通意見です。私が何回も申し上げていますが、これまでの原材料、諸経費の価格転嫁率は5勝10敗です。必要不可欠な私共の製品は「空気と水とパッケージ」と言うほど、欠かせないものですが、その価値以下に軽く扱われています。今回の石化原料をはじめとする諸経費の値上げの成否いかんで6勝10敗か、5勝11敗のいずれかになるでしょう。

なぜ、こうなったのか、業界人一人一人がジックリと考えるべきです。日本人の所得が減少する中、諸外国は1.5倍から2.5倍に伸びています。ワンコインランチ、100円ショップも他国に例はありません。低所得でも暮らせる国になってしまいました。値上げ努力をせず、つい安易な値下げで売上を維持してきたのですが、もうこの方策は

行き詰まりました。物の価値より安く売り続ける事はもうできません。私たちサプライヤーがいなくなれば商品の流通は止まります。今までの私共の価格政策が誤っている事は事実です。安くするための多くの誤った判断の中で事業の継続性を危うくする事実の数々に私は気づきました。

- ①逆ざやの取引、嘘ではありません。過去にもH印刷が大手菓子メーカーに対して行い、大きな倒産となりました（2008年5月）。現在も同様の例が実在します。
- ②設備、人員等、将来必要な経営資源を準備できない特に加工機が30年、40年と老朽化している。
- ③安全衛生等、とりあえず印刷物の外見上見えないものにはお金をかけない。

要は、「貧すれば鈍する」となっている事です。私は軟衛協理事会で大手印刷さんをはじめ準大手さんも値上げに汗をかくのは当然、その成果を協力会社にも露を落としていただくこと、且つ品質安全衛生についてチェックし適正価格を出し装備を充実させることが業界全体の発展につながると申し入れました。無理にこの状態を続ければ倒産・廃業が増え、必要な品質、安全性、トレーサビリティが失われ、大きな問題になるかもしれません。考え直す時です。

世の中は、いかに安いかでなく、安全で環境にも人（社会）にも優しくしようというSDGsに切り替えています。新自由主義よさらば、人間尊重です。

今年こそ業界立て直しに共に努力しましょう。

# 2022年 年頭所感

北海道グラビア印刷協同組合  
理事長

若狭 博徳



新年明けましておめでとうございます。  
いよいよ令和4年がスタートいたしました。

本年は十干が「壬<sup>みづのえ</sup>」、十二支が「寅」の  
年にあたるので、干支は「壬寅<sup>みづのえとら</sup>」となる  
そうです。

一般的には十二支で表現されますが、  
10種類ある十干と十二支を合わせたもの  
が十干十二支で、組み合わせると60  
種類となります。

つまり60年に一度訪れますから、60歳  
以上の諸先輩は2回目の壬寅ですね。

「寅年」は芽を出したものが「成長して  
いく（見えてくる）」年や、これから成長  
する物事の「象徴が生まれる（始まる）」  
年と言われているそうです。

大きな変化が始まる年となるのでしょ  
うか？

昨年を振り返ると2021年は新型コロナ  
感染に始まり新型コロナ感染に終わる、  
そんな1年であったような気がします（実  
質2年間でしたが）。

我々の生活や経済活動は自粛を強いら  
れ、また出口の見えないトンネルからい  
つ抜けられるかも判らぬまま、ただ只管<sup>ひたすら</sup>  
ストレスに耐え忍ぶ日々を送っていたよ  
うな気がします。

東京オリパラ2020が開催されました。  
コロナ禍での開催は世界中を、また歴史  
的に見てもこのような環境下での開催は  
前例が無かったと思います。

代わったばかりの菅総理や尾身会長が  
毎日のように会見しておりましたが、日々  
手探りの対応を余儀なくされておりました。  
誰が悪い訳では無い筈なのに世の中は、  
特にメディアは何かにつけ粗探しと責任  
の所在を突き付けておりました。そんな  
ことをして何になるのか？ 浅学菲才な  
私はそれなりに考えてみましたが、消化  
不良状態が日々募る思いでした。

その感覚は実務の中でも感じている自  
分に気付きます。矛盾だらけのプラスチ  
ック業界への偏見、それに対する報道の  
姿勢、片手落ちな政治による規制や腑に  
落ちない社会ルール。また、他人様へは  
完璧を求める商習慣ではありますが、自  
らは何か事が起こると隠ぺいをしようと  
する体質。勿論、全てがとは申しませんが、  
このような環境下においてこのまま進ん  
で行って良いものかとジレンマを感じる  
毎日でもあります。

そうした違和感の中で思い起こしたのは、  
数年前から参加させていただいておりま  
した『コンバーティングの明日を考える会』

だったと思いますが、田口会長を筆頭に、参加されておられる皆さんが真剣に未来を語っておられる姿に感銘したものです。

まだまだ私はその器ではございませんが、自分が感じている矛盾や理想についてまずは北海道の正会員および賛助会員企業の皆様と共に学びの場と議論の場を設け、あるべき理想像に向けて歩みを前に進めて参りたいと思います。

その一環として副理事である極東高分子株の大野社長に協力を仰ぎながら、昨年12月2日に北海道グラビア印刷協同組合主催、日本ポリオレフィンフィルム工業組合との合同企画にて研修会を執り行いました。

研修会のテーマは、我々の産業におけるSDGsです。内容的には旭化成様にご講演いただきましたが、非常に難易度が高く、私の理解を超えておりましたので割愛致しますが、その場で一番印象深かったのは研修会後の懇親会の場です。そんな事しか言えんのかとお叱りを受けそうなネタですが、お許してください。ほぼ2年振りに業界人の経営レベルと管理職レベルを加え、総勢47名での開催となりました。この時、我々人間はなんてアナログな生き物なのだろうと改めて感じる程に笑みと会話が途切れない、和やかな時間が流れるとても素敵な時間となりました。

しかし、地方都市としての問題は多々あります。国は賃金の上昇を求めています。首都圏との賃金格差は愕然とします。

東京都の平均は大凡620万円、神奈川平均560万円に対し、札幌市では平均で320万円程しかありません。食品や自動車等、売られている価格は何処も一緒でありますし、土地はいくらか安いですが、建物は耐雪荷重の関係で異常に高価であり、ランニング費用がかさみます。この格差をどのように是正していかなくてはならないのか、日々頭を悩ませております。未来に向けた環境整備を行うにしても投資は必要でありますし、足元の労働人口の減少は致命的であり、生産的活動エネルギーの縮小は避けて通れません。

私こと愚生が語るには社会性や国民性、その運用ルール等確立していかなくてはならない未来に向けての企業の役割と価値を考えた時に、企業の発展は肥大化する事ではなく、その内容であると思います。

次世代へより良い環境を作り上げ渡して行くためにも、またこの業界が更に合理的な仕組みの上で収益力を向上させ、労働環境是正と総合的な環境対策を両立していく事が求められていると感じます。

壬寅となる本年は新型コロナウイルスを抑え込み、新時代へ向かって第一歩を踏み出す年になっていただきたいと願わずにはられません。

皆様には相変わらずの感染対策を徹底していただき、然るべき時に皆様とご挨拶ができましたらと思います。

それまで十分にご自愛下さいますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

# 2022年 年頭所感

埼玉県グラビア協同組合  
理事長

佐伯 鋼兵



令和4年新年明けましておめでとうございます。

日頃は私共組合員が組合活動を通じてご指導賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

今年は、新型コロナウイルスが中国で発生確認ができてから3回目のお正月を迎えたこととなります。日本では令和2年が明けて1～2月頃から世の中が騒がしくなったようであったと記憶していますが、まさかこのように長い間苦しめられるとは考えてもみませんでした。

この2年間は未知の社会生活で、経済・企業全てが相違してしまいました。

昨年末から感染者の人数が少し落ち着き始めたのも束の間、新たな変異株が世界中で広がりを見せています。

本年の干支は寅年（壬寅／みずのえとら）であります。虎は日本には生息しませんが、

諺は数多くあります。偉大さ・名誉・勢い・貴重さ・危険など勇ましくエネルギー溢る様を表すものばかりです。さらにこの壬寅には、“壬”と“寅”の持つ漢字の意味から、“厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎”というイメージがあります。それにあやかり、今年こそ明るく希望あふれる年になってほしいと願うばかりです。

日本経済の先行きが予想出来ない状況の中、我々の会社もこのままで良いのか今後を見直す必要が出てくる可能性もあるでしょう。その時経営者として辛い立場に立たされる場合もあるかもしれませんが、お互いに切磋琢磨して頑張りましょう。

最後になりましたが、組合員諸兄の皆様方のご発展を祈念して、年頭の挨拶といたします。

# 2022年 年頭所感

関東プラスチック印刷協同組合  
理事長

石井 純



皆様、新年あけましておめでとうございます。  
常日頃組合活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。  
でございます。

年明け1都3県の緊急事態宣言都で始まった  
2021年は、夏の東京オリンピック・パラリンピ  
ックで大いに盛り上がりを見せるはずでした。開  
催にあたり世論は激しく錯綜しました。57年前  
に日本国民が熱狂で迎えた平和の祭典は高度成長  
期の日本の象徴となりましたが、今回はどのよう  
な評価、経済的影響があるのでしょうか。そして  
11月には新政権を発足し「新しい資本主義」を  
唱えて新しい時代の期待をつなぎ始めました。さ  
て今年2022年は如何なる年になるのでしょうか？  
期待と不安で新年を迎えております。

2021年半ばより世界経済は国や地域にばらつ  
きはあまるものの、総じてコロナ危機による落ち込  
みから回復を続けております。欧米先進国でのコ  
ロナワクチン接種率も6割を超え防疫と経済  
活動の両立も進んでいます。然しながら世界経済  
の回復ペースは21年4～6月期に比べ7～9月  
期は減速してしまいました。部品・原材料不足の  
深刻化、資源価格の急上昇、中国の電力不足によ  
る生産の減速などが要因であると考えられます。

2022年の経済は、経済活動の正常化に伴う雇  
用・所得や消費回復の本格化を背景に、コロナ危  
機下での政策効果に支えられた回復から、自律的  
な回復へのシフトが本格化するのではないでしょ  
うか。

回復傾向にありながらも、海上物流の混乱、半  
導体不足、人手不足等の様々な問題が立ちはだか  
るでしょう。

日本経済は10月以降の緊急事態宣言解除後も  
新規感染者数は低水位しており外食産業、旅行産  
業等の外出関連業種等が牽引し国内経済活動の再  
開が進んでいます。ワクチンの定期的な接種習慣、  
PCR検査の拡大、医療体制の強化など様々な努  
力と変化により2022年は国内経済活動の正常化  
に伴う雇用・所得環境の改善に加えコロナ危機で  
積みあがったと言われていた、約40兆円の過剰  
貯蓄の一部が消費に回り潜在成長率を上回るペ  
ースでの経済回復が見込まれています。

私たち軟包装業界においては、受注量回復傾向  
の真ただ中に材料不足、原材料価格の急上昇と  
行く手を阻まれるかのような状況にあります。

しかし、業界の使命でもある一衛生的にものを  
包む一を世の中に提供し続けるために、どのよう  
な最悪な場面においても技術革新と維持発展して  
いかなければなりません。

2022年も様々な問題が待ち受けておりますが、  
組合活動を通じて有意義な意見交換、情報交換を  
行い乗り越えていきたいと思う所存でございます。

2022年は寅年です。「虎は千里往って千里還る」  
という言葉がございます。虎が一日のうちに千里  
もの距離を行き、さらに戻って来ることができる  
活力に満ちた、行動力のあるさまを表す言葉でご  
ざいます。

当業界も行動力に満ち溢れた2022年にしたい  
と心より強く思う次第でございます。

最後になりましたが、皆様方のご繁栄とご多幸  
と新型コロナ感染終息を祈念申し上げます。新  
年の挨拶とさせていただきます。

# 2022年 年頭所感

東海グラビア印刷協同組合  
理事長

杉山 真一郎



新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は延期されていた東京オリンピックが開催され、過去最多の金メダルおよびメダル数を獲得した日本選手の活躍に国民は感動しましたが、コロナ禍により無観客での開催となったため画面越しの風景に少し寂しさを覚えました。調べてみると東京において昨年1月から9月末までの273日の内、「緊急事態宣言」も「まん延防止等重点措置」も適用されなかった、いわゆる「普通の日」はたった28日しかなかったようです。一時は1日の陽性者数が日本全体で2万人を超える日が続き、感染した場合適切な医療を受けることができるのか不安を覚えた方も多いと思います。それがワクチン接種の効果なのか、10月には1,000人を切り、11月になると2桁台となり急速に落ち着きました。

世界的にみるとまだまだ落ち着いていない国もあり、何故日本と違うのか、さまざまな指摘もありますが、人に迷惑をかけない考え、衛生観念などそういった文化が大きいのだらうと思います。まだまだ予断を許さない状況ではありますが手洗、マスクを引き続き心掛けコロナウイルスの世界的な終息を願います。

さて、私はコロナ禍により失った大きなものにコミュニケーションがあると思います。弊社においても新入社員歓迎会ができないなど、社員とのコミュニケーションが減りました。お客様、仕入れ先様とのコミュニケーションも減りました。本当に大きな損失だと思えます。

コロナ禍が落ち着きだした10月、軟包装業界は酢酸エチルの供給危機に見舞われました。

ほぼすべての皆様が影響を受け、実際に稼働停止に追い込まれた会社もありました。弊社も綱渡りの状況でしたが、当時日本に限らず色々な方と情報交換をさせていただき、皆様親身になって動いてくださり感謝です。あらためて日頃のコミュニケーションの積み重ねがいかに大切かを感じました。酢エチに関しては直近では落ち着いておりますが、今後も注視が必要です。昨年の危機が最

大の危機だったということを願います。

危機と言えば原料の暴騰も業界にとって深刻な状況と言って過言ではありません。

私も入社以来これだけ1年間にフィルムが値上がりしたという記憶はありませんし、今回は先述の酢酸エチルの価格も暴騰しております。アルミ箔やナイロンフィルムなど一部のフィルムは手に入らないという状態です。原油価格については投機的な面もあるでしょうから、どこかで流れが変わると思いますが、一部フィルムの供給タイト感については工業用途との兼ね合いからしばらく続くのではと考えます。コンバーターによって仕入れに強い材料があると思いますから、今後コンバーターによって材料面から来る分業、このパッケージはこの会社に競争力があるといった色が強くついてくるのではと思います。

それと同時に環境問題、原油高騰およびSDGsとからめて、省プラスチック、脱有機溶剤の流れはますます進むのではと推測します。

瓶、缶、紙の素材からプラスチックに変わってきたというパッケージの歴史、プラスチックが他の素材よりすぐれていることに自信は持っていますが、仕入れ困難、原油価格に振り回されることを考えても省プラスチック、脱有機溶剤は我々も考えなければならないと思います。当然省プラスチックが進めば会社の売上にも直結する話ですから、大きな影響があるでしょう。

最後になりますが、2022年も総じて食品パッケージの需要は底堅いと考えております。地震、リーマンショック、そして今回のコロナ禍においても大きな需要の落ち込みがない食品パッケージ業界は大変良い仕事だと思います。他方で人手不足、材料に振り回される状況は年々ひどくなっていると感じます。当社としては社是である会社の繁栄が社員の幸せと一致する経営を意識し、少し先の未来を考えながら対応していきたいと思えます。

本年も一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたしますとともに、会員の皆様方のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新春のご挨拶とさせていただきます。

# 2022年 年頭所感

北陸グラビア協同組合  
理事長

賀谷 真尚



## 急激な波

このところのマスメディアはSDGs、ESG、脱炭素、マイクロプラスチック、働き方改革、賃上げ、脱プラ、DX化、ダイバーシティ等々と、毎日のように目に入れさせてくれます。特に我々の企業経営に敏感に響く標題ばかりです。

考えて見ると、それらの一つ一つの内容は大変もったもで、抱える意味は、その様に成れば素晴らしい事ばかりで、そんな社会を目指そうと云う事でしょう。

私なんぞのこれまでの経営観は雇用を確保し、会社の利益を継続的に上げて会社を存続させる事が宿願と思って携わってきましたが、新しい価値観や将来に対しての在るべき姿と云う新たな課題を突き付けられ、戸惑いと焦りを感じています。しかしながら、これは世界的な価値観、社会的価値観の流れであり、それらに目を向け、経営目標に組み込んで行かなくては、消費者、顧客、仕入れ先、従業員、銀行等のステークホルダーや、地域社会、一般世間からも離れ、時代に取り残されて行くように思います。ただ、現実には、日々の売り上げや経営ルーティーンに追われ、期が終わるとホッとしたり、反省したり

して、常に長く安定した経営を想い、毎日を過ごしているのが現状で、なかなか頭をそちらの方に向けられていません。

改めて会社の存在意義や社会全般との関わりを意識せざるを得ないと思っています。ある人は誌上で社会の課題を効率的に解決する社会善だと説いていました。

現在、我々も働き方改革の推進や賃上げ等の待遇改善に向けた行動をしていない訳ではありませんし、当組合の理事会でも議題にあがり、それらの情報をもらったりしていますが、特に我々の業界はそれらの課題の近くに在るように思います。業界のイメージ向上も含め一社一社が取り組んで行かなければならない共同課題になったように思います。

しかしながら、まず自社の経営を成り立たせる事が第一で、次に本業で何ができるか、何を選ぶか、本業での価値を考え、バランスよく新たな課題に目を向け、着実に行動して行かなければいけないでしょう。結果、その会社の姿勢が社会との繋がりを深め、従業員の働き甲斐を感じてもらおう事で、幸せに結びついたり、地域社会に貢献する事に成るのでしょうか。

# 2022年 年頭所感

関西グラビア協同組合  
理事長

竹下 晋司



新年明けましておめでとうございます。  
皆さまにおかれましては輝かしい新年をお迎えることとお喜び申し上げます。旧年中は、当組合に対し多大なるご尽力をいただき感謝申し上げます。

私たちの組合は、昭和36年（1961）にグラビア印刷を生業としている近畿地域の同業者をもって構成するコンバーターとプリンターの2つの工業会を母体とし、昭和45年（1970）に「大阪グラビア」と「関西プラスチック印刷」の協同組合をそれぞれ設立。さらに平成4年（1992）運営機能・業務を効率化するために合併し、関西グラビア協同組合に名称変更して今日に至っています。

ここで昨今の様々な問題を考える上で、そもそも協同組合とは、そして私たちの業界の今後果たすべき役割について考えてみたい。私の考える協同組合の活動の基本は、組合員相互の親睦を深めた上で相互扶助の精神を大切に、軟包装業界の地位向上、さらに組合員や賛助会員企業の発展に寄与することであると考えます。これらの実現ために各種勉強会、情報交換会、親睦活動を展開、またグリーンプリンティング認定工場の取得を通じて環境問題の解決への行動を進めています。

いま巷では「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」という言葉が躍っています。この言葉の意味は「進化したデジタル技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革すること」です。ならば私たちの組合、そして業界も今こそ！「GX（グラビア・

トランスフォーメーション）」を起こす時であると考えます。【進化したグラビア印刷・軟包材を浸透させることで、人々の生活をもっともっとより良いものへと変革する】といった気高い気概で2022年をスタートさせます。

2030年までにSDGsがめざす持続可能な開発目標達成までのリミットが8年を切りました。一方、最近はDDDsという言葉があるそうです。これは「でも、だって、どうせ」など、人から相手にされなくなる言っではならない言葉を表しています。今年はやせ我慢してでも、歯を食いしばってでもDDDs言葉を口にせず、当組合・業界もSDGsの目標への貢献を続けなければなりません。

当組合は昨年12月3日、コロナ対策を万全にしたうえで93名が集い、年末情報交換会（忘年会）を開催しました。これは組合活動すべてのベースに「組合員相互の親睦」があるからです。久しぶりに一堂に会した組合員・賛助会員の皆さんは、予想以上に盛り上がり情報交換、親睦を深め合っていました。

この50年を超える当組合の輝かしい歴史に恥じない様、一心不乱にぶれない活動を目指して行く所存でございます。本年も、業界・組合活動の発展に努めて参りますので、より一層のご支援、お引立てを賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 2022年 年頭所感

九州グラビア協同組合  
理事長

中村 政晃



新年あけましておめでとうございます。

本年も宜しくお願い致します。

“降る雪や 明治は遠くなりけり”

この句は昭和6年に俳人「中村草田男」が詠んだ句ですが、我々世代も段々と昭和レトロになりけりというそんな心境になります。

人口年表

☆150年前：明治5年（西暦1872年）	
人口	34,806,000人
☆100年前：大正11年（西暦1922年）	
人口	57,390,000人
☆50年前：昭和47年（西暦1972年）	
人口	111,940,000人
☆現在：令和3年（西暦2021年）	
総人口	125,300,000人
日本人人口	122,948,000人

国連によると、1950年に25億人であった世界人口は2000年には60億人を超え、2011年には70億人に達し、人口が増加している新興国においては食料需要が急増し、更に原油価格の高騰はトラクターの燃料代・農薬・肥料・農業用包装資材など農業の投入コストを押し上げ、言わば将来の食糧危機は原油などのエネルギー危機と連動しています。日本はエネルギー自給率4%前後で、先進国の中では異常に低く、貿易収支で最大の輸入額は燃料が占めています。エネルギーは社会の産業活動と人々の暮らしを支え、

エネルギー供給を水や空気のように要求しているのが現状です。エネルギー資源を使いやすい形態に変換し、消費者に供給の不足や停止が生じないようにしていくことと、どのエネルギー源も異なる利点と欠点を持っており、それを満たすには資源量が豊富で供給不足や価格変動が小さい資源を利用していく必要があります。

2019年度発電電力量<資源エネルギー庁>

石炭	31.8%
液化石油ガス	37.1%
石油	6.8%
原子力	6.2%
水力	7.8%
再生可能エネルギー	10.3%

食料の自給率37%・労働力不足・エネルギー自給率4%の国が今までは人口の増加と共に国も成長・発展してきましたが、今後は今までは違ってきます。

規制緩和によるデフレ現象・コロナウイルス後遺症・働き方改革関連法・気候変動…。

ブレーキとアクセルの踏み間違いのないよう、佳き年となるよう努めましょう。

最後になりましたが、皆様のご発展とご健勝を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

# 2022年 年頭所感

全国グラビア製版工業会連合会  
会長

高村 敏夫



皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は全国グラビア製版工業会連合会にご協力を賜り御礼申し上げます。

一昨年から続くコロナ禍と、ものづくりになくてはならない原材料の高騰が、私も含め皆さんも昨年以上に先を見通せない不安な日々を送っているのではないのでしょうか。

2020年、菅前首相が「2050年までにカーボンニュートラル（CN）の実現を目指す」と宣言してから一年が経過しました。

人口・経済規模が大きく、火力発電比率が7割を超えるわが国において、CNを達成することは決して容易ではありません。

各々の企業自身が脱炭素化に向かう選択を積極的な実践が求められます。

例えば、購入電力を再生可能エネルギー由来に切り替えたり、自動車をガソリン車から電気自動車に買い替えるといった行動も脱炭素化へ早期に対策できる行動です。

自家消費による太陽光発電設備や蓄電

池設備も実現可能な対策です。

我々が取り組む規模は決して大きくはありませんが、脱炭素化への動きを加速させる重要な役割をもっていると思います。

私が年末年始という特別な節目に必ず行っていることがあります。

ノートに1年間を振り返り、出来たこと・出来なかったこと・今年の目標等々を書いていきます。日頃から常々反省し対策することは難しいですが、年末年始という独特の雰囲気のある節目ですと、ペンがよく走ります。

自分の気持ちが変わらなければ行動も変わりませんし、良い行動が良い習慣を作り、良い結果に繋がるのです。この行為は尊敬する先輩の教えに習っているだけですが…。

今年はより一層気持ちを新たにして真剣に取り組む所存でございますので、変わらぬ御指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年も皆様が御健勝で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

## 軟包装グラビアの使命

全国グラビア協同組合連合会

会長 田口 薫

一般的に、印刷とは紙やフィルムなどに絵柄や文字を形成する事ではありますが、当業界にはさらに深いものがあります。

まず第一に中身の商品を保護することが私共の務めです。人体に安全な材料（紙、フィルム、インキ、接着剤）を吟味して使う。

次に、人の口に入る物の一部ですから、加工工場の環境と衛生管理についても保守義務があります。虫や異物が包装紙に混入するリスク、ウイルス、細菌が付着するリスク、または極めてまれですが、商品を購入した消費者の健康被害がない等、材料、加工方法を選択しなければいけません。

その他、社会的なニーズ、各社法令を遵守し、インキは危険物でありますので、特に厳しい法令遵守が求められます。労働関係の諸法規、特に労働安全は労働者に対する雇用側の義務です。社内に労務安全委員会の設置や産業医の指導が不可欠です。遠く外国から働きに来て下さる人に対し、彼らの人生に少しでもプラスとなるように接し、喜んでいただくべきであります。決して安く働かせて安い包材を作って売上を増やすような会社には研修生を紹介すべきではありません。

日本は長引くデフレの中、少しでも安い方に働きやすくなっていますが、外国人との関係も大切にし、安易な方法でなく人間尊重の原則を守っていく業界にしていくべきと考えます。

## 第10回「グラビア印刷技能実習評価試験委員会」開催 ダイコーの3名の受検者を合格に

第10回グラビア印刷技能実習評価試験委員会が、2021年12月8日（水）午後3時より、オンラインにて開催された。当日の出席者は、浮田信也委員長（大和産業㈱代表取締役社長、東海グラビア印刷協同組合・副理事長、全国グラビア協同組合連合会・理事）、袖山高明委員（全グラ事務局長）、技術委員の都築晋平氏（㈱日商グラビア・営業技術理事）、専門委員の柳谷承示氏（全グラ顧問）、劉学春氏（全グラ特別委員）、小池行生氏（同）、村田英雄氏（全グラ専務理事）、オブザーバーの岩本清一氏（日印産連GP認定審査委員）の8名。

2021年11月15日（月）午後1時半より、㈱ダイコー（大阪府羽曳野市野47-1）本社工場において、全グラの袖山高明事務局長が試験実施責任者となり、㈱日商グラビアの都築晋平理事、日印産連GP認定審査員の岩本清一氏、そして袖山氏の3名が監督者となり、補佐員3名、事務局2名、

関係者3名の下、3名の方が、初級の学科および実技試験を受検しました。

第10回グラビア印刷技能実習評価試験委員会では、評価試験概要、採点表を参考に、受検者3名を合格とし、グラビア技能実習評価委員会に報告することとしました。



学科試験



説明を受ける受検者



フィルム取り付け



版洗浄

## 第7回「グラビア印刷技能実習評価委員会」開催 ダイコーの3名の合格を正式承認

第7回グラビア印刷技能実習評価委員会が、2021年12月10日（金）午後3時より、全国グラビア協同組合連合会会議室とオンラインにて開催された。当日の出席者は、竹下晋司委員長（関西グラビア協組・理事長：(株)ダイコー）、若狭博徳委員（北海道グラビア印刷協組・理事長：(株)北海サンコー）、佐伯鋼兵委員（埼玉県グラビア協組・理事長：(株)佐伯紙工所）、賀谷真尚委員（北陸グラビア協組・理事長：賀谷ゼロファン(株)）、田口薫委員（関東グラビア協組・理事長：大日本パッケージ(株)）、石井 純委員（関東プラスチック印刷協組・理事長：(株)多連堂）、杉山真一郎委員（東海グラビア印刷協組・理事長：富士特殊紙業(株)）、中村政晃委員（九州グラビア協組・理事長：(株)三裕商会）の8名。

2021年12月8日（水）午後3時より、オンラインにて開催された第10回グラビア印刷技能実習評価試験委員会の内容について、同委員会の浮田信也委員長（東海グラビア印刷協組・副理事長：大和産業(株)）より報告があり、(株)ダイコーの本社工

場において実施された、印刷職種・グラビア印刷作業技能実習評価試験を受検した3名について、同報告内容、評価試験概要、採点表を参考に、3名を合格とし、承認した。

### 付加価値のあるさまざまな包装材で

### お客様の商品づくりをお手伝いします

大日本パッケージグループではアイデアを出し合い国際社会で戦える印刷枠を超えた付加価値のある商品提案を行ない、お客様のニーズにお応えします。



イオン吸着式全熱交換システム  
全工場 環境優良工場受賞



**大日本パッケージ株式会社**  
DAINIHON PACKAGE CORPORATION

〒343-0002 埼玉県越谷市平方 1004-11  
TEL 048 (973) 0301 FAX 048 (973) 0300

グループ会社



**BELLPACK** ベルパック株式会社  
E-mail info@bell-pack.co.jp URL http://www.bell-pack.co.jp/

## 事務局体制変更について

2022年1月14日付で、約14年間、全国グラビア協同組合連合会の専務理事を務められた村田英雄氏が退任します。後任には、袖山高明氏が就任します。この交代は、同日開催される全グラ理事会にて正式に承認される予定です。なお、村田氏は、同日付で関東グラビア協同組合の専務理事職も退き、袖山氏が後任を引き継ぎます。

村田様の経験、バイタリティ、お人柄にどれほど励まされたことでしょうか。また、誰よりも早くデジタルデバイス・ツールを取り入れてきたことは、今日の全グラのHPの充実、Facebookの活用などに表れています。村田専務理事、長い間本当にご苦労様でした。

### 村田英雄専務よりご挨拶

2022年1月14日を持ちまして、全グラ、関グラの専務理事を退任させていただくことになりました。後任には、袖山高明さんに就任していただきますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2008年（平成20年）に事務局に入り、当初、川田喜朗前会長（トーホー加工社長、故人）にはしょっちゅう怒られ、田口会長が取り成すというパターンが続き、村野友信社長様（現・信和産業社長）にもお助け頂きました。

そのような未熟な小生を14年間、ご支援、ご協力をいただき、全グラ・関グラの皆様には、深く感謝を申し上げる次第です。

退任後も、ご用があればいつでもご協力させていただくつもりです。

グラビアの発展を祈念し、退任させていただきます。

永くお世話になり、厚く御礼申し上げます。

### Information

## 日印産連「印刷と私」 小山薫堂氏と日本航空のトークショー映像をオンライン公開中

（一社）日本印刷産業連合会のグリーンプリンティング（GP）認定事務局は、小山薫堂氏と日本航空㈱による「印刷と私」トークショーを開催、その映像をオンラインで配信、公開しました。

今年度で5回目となるこのトークショーは、東京都新宿区にある「市谷の杜 本と活字館」において無観客で開催され、新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン配信による映像公開となりました。

ゲストに日本航空の商品・サービス開発部部長の新谷浩一氏、JALグループ機内誌「SKYWARD」の出版・編集グループ長の飯田未知氏を迎え、小山氏とのトークが繰り広げられました。

トークショーの映像はYouTube (<https://youtu.be/TuE55XAYzOM>) で見られる他、GP認定制度

のホームページ (<https://www.jfpi.or.jp/green-printing/talkshow/>) からも閲覧できます。



左から、日本航空 商品・サービス開発部の新谷浩一部長、  
「SKYWARD」出版・編集グループ長の飯田未知氏、  
小山薫堂 GPPR 大使

# 組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

## 令和3年度関西グラビア協同組合青年部忘年会

関西グラビア協同組合青年部（田中青年部部長、淀川加工印刷㈱）は、2021年11月26日（金）午後6時から、JR大阪駅直結の「ラグナヴェールプレミア」において22名参加のもと、令和3年度青年部忘年会を開催しました。



青年部の田中部長

事務局の司会によって進行し、開宴に際し、田中青年部部長が、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年3月以降の青年部行事がことごとく開催中止に追い込まれ、今回の開催も危ぶまれる中、感染者数が減少に転じ2年ぶりに青年部会員が一堂に会することができた感謝と、再三の開催延期に関わらず対応して下さった会場担当者に謝意を述べるとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため100名規模の部屋を設定した



木田副部長  
兼組織交流委員長

こと、歓談の場ではマスク着用をお願いし、今年の締めくくりとして存分に情報交換し親睦を深めましょうと挨拶しました。その後、来賓である竹下理事長の乾杯の音頭で忘年会が始まり、情報交換を行いました。最後は木田副部長兼組織交流委員長の閉宴挨拶と一本締めで午後8時00分青年部今年最後の行事を無事に終えました。

### Information

#### JPI、2月9日にJPIWEBフォーラム「国内初!レトルト・ボイル・電子レンジ対応デジタルプリント」を開催

（公社）日本包装技術協会（JPI）は、2022年2月9日（水）午後2時～3時まで、西日本支部主催のJPIWEBフォーラム「国内初!レトルト・ボイル・電子レンジ対応デジタルプリント」を開催する。講師は、凸版印刷㈱九州事

業部 企画販促本部 販売促進部 生活系販促チームの南 浩紀氏。定員は300名。参加費は、会員無料、一般11,000円（税込）。申込はJPIホームページ（<https://www.jpi.or.jp/>）より登録する。

## Snapshot



(写真撮影時はマスクを外しています)

# 組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合

## 令和3年度年末情報交換会を開催

関西グラビア協同組合（竹下理事長、榊ダイコー）は、令和3年12月3日（金）午後6時からANAクラウンプラザホテル大阪（万葉の間）において、93名参加のもと令和3年度年末情報交換会を開催しました。

業界では新型コロナウイルスの感染拡大に端を発した多くの問題が山積し、会員企業からは情報交換を要望する声もあり、大阪府会食時要請と両立させた形の4名1卓、2時間以内での開催に踏み切りました。以前よりホテル担当者と飛沫感染、接触感染防止対策について打合せを重ね、飛沫防止パネルの設置、歓談スペースの確保、乾杯の発声を中止するなど昨年同様の対策も講じました。



竹下理事長

司会の竹下青年部理事から感染防止に関する注意事項の説明があり、続いて竹下理事長が開宴挨拶の中で、今回の開催は組合の意義を念頭に判断したこと、組合の意義とは海洋汚染、

VOCの問題など業界の様々な情報を正確にお伝えすること、会員相互の親睦を図ること、情報交換



DICグラフィックスの  
西巻部長

の場を設けることであると述べ、食事の時は静かに楽しみ、1年ぶりとなる情報交換の場を有効に活用し、久しぶりに会う方たちと有意義に過ごしていただきたいと締めくくりました。

その後、賛助会員を代表してDICグラフィックス(株) リキッドカラー事業部 関西リキッドカラー第一営業グループ 部長 西巻将元氏の乾杯の音頭で宴会が始まり、2時間の食事と歓談の輪が繰り広げられました。

中締め挨拶では中西理事が壇上へ上がり、今年1年を振り返り5月に亡くなった米谷理事のご冥福を祈り、皆で心一つにして新たな年を迎えることを誓い、一本締めで午後8時00分、関西グラビア協同組合今年最後の行事を無事に終えました。



中西理事

### 感染防止対策

- 1卓4名での配席
- 着座コース料理での開催
- 入口での手指消毒、検温の実施
- テーブル上に飛沫防止パネルの設置
- 歓談スペースを設けマスク着用の徹底
- 乾杯の発声、グラス合わせの禁止
- 各所への消毒用アルコールの設置



会場風景

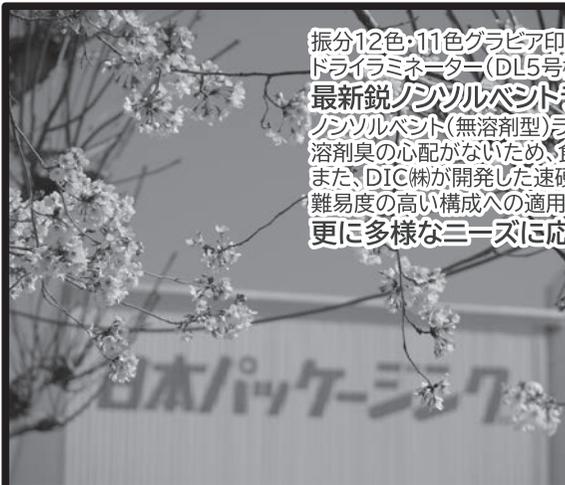


1卓4名に配席した食事スペース



歓談スペース

振分12色・11色グラビア印刷機(印刷7号機・印刷8号機)、  
 ドライラミネーター(DL5号機)に引き続き、  
**最新鋭ノンソルベントラミネーター(NS6号機)を増設稼働致しました。**  
 ノンソルベント(無溶剤型)ラミネーターは、高い経済性と環境適性に優れており、  
 溶剤臭の心配がないため、食品包装などに適しています。  
 また、DIC㈱が開発した速硬化型無溶剤接着剤“DUALAM™”に対応し、  
 難易度の高い構成への適用も視野に入れた仕様としています。  
**更に多様なニーズに応えられる「日本一の協力会社」を目指してまいります。**



ISO9001: 2015 認証取得  
 グリーンプリンティング認定工場  
 軟包装衛生協議会認定工場 正会員



■グラビア印刷 ■ドライ・ノンソルラミネート

**日本パッケージング株式会社**

本社・工場 〒340-0121 埼玉県幸手市上吉羽2100-30  
 TEL:0480-48-2620 <http://www.nippake.com/>

# 組合員・単組の近況

関東グラビア協組 理事会報告

## 田口 薫理事長の喜寿を祝う、江戸切子のお猪口を贈呈 全グラの新年顔合わせ会、1月14日に予定

関東グラビア協同組合は2021年12月2日（木）午後3時より、定例理事会を開催しました。当日は、田口 薫理事長（大日本パッケージ㈱）、安永研二副理事長（東包印刷㈱）、山下雅稔副理事長（㈱巧芸社）、村田英雄専務理事、袖山高明事務局長、阿部 純顧問（北上産業㈱）の6名が組合事務所から、吉原宗彦副理事長（東京加工紙㈱）、橋本 章理事（橋本セロファン印刷㈱）、千田 敦理事（㈱東京ポリエチレン印刷社）、川田雄治理事（トーホー加工㈱）、山下博正理事（㈱日商グラビア）、村野 剛理事（信和産業㈱）、柴田里香理事（千代田オーク法律事務所）、佐藤裕芳監事（㈱千代田グラビヤ）、名和公久代理監事（㈱カナオカ）の9名が組合事務所からの、計15名が参加しました。

理事会が始まる前に、商工中金押上支店の松尾 悟志支店長より、商工中金の「幸せデザインサーベイ」(<https://www.happydesignsurvey.com/>)について説明がありました。



これは、従業員に、幸せに関する約100問のアンケートに回答してもらい、組織としての「コミュニティ・コミュニケーション」「チームパフォーマンス」「マネジメント」と、個々の従業員の「カラダ」「マインド（幸福度）」の5つの要素から、幸せ指数を得点として、会社全体の幸せを可視化するものです。個人の主観的な幸福感が向上すると、生産性や創造性が向上するということが研究で分かっていますので、従業員が幸せに働くことができれば、会社の成長や持続性につながるという訳です。

このサービスを始める前に、100社くらいでトライアル的に実施したところ、幸せ度の高い会社

と低い会社では、売上高の平均成長率が3倍違うという結果も得られているとのこと。「ある企業にやっていただいたら、社長さんから、『社員から、社長って僕たちのことを考えてくれているんですね』と言われた。当たり前と思っていたが、それからだいぶ距離が縮まり、改革ができた』というコメントも紹介。「ご興味があれば、お近くの商工中金にお声がけいただければ」とPR。

続いて、理事会の冒頭、田口 薫理事長より、「今年もあまり良い年ではなかった。原材料価格がどんどん上がってきたり、物が手に入らなかったり、非常に苦しんだ年であった。まだまだ原材料価格は上がりそうですし、不測の事態が起こるかもしれない。それらに対する対応策、外国人技能実習生に対する組合員とアウトサイダーとの認識の違いなど、課題は山積だが、ご議論いただきたい」との挨拶。



ここでサプライズ、12月6日に喜寿を迎えられる田口理事長へ、お祝品を贈呈。田口氏からは、「(理事長職を) やめられなくなってしまうよ」と本音とも冗談ともつかない言葉が。そして、田口理事長についてのVTRが10分ほど映し出され(皆さんお若い!), 議題入り。

## 1. 景況

- 原紙の4次値上げ、5次値上げの話が来ている。
- 仕事量は1~2割増だが、来年の先食いの感がする。
- 10月頃から原反を多めに確保してきたので、年内は持つが、来年の原反確保が心配。
- 値上げは、何とかお客様にご了解いただいた。
- 受注は一時、昨年のお倍になったが、作れば作るほど赤字。
- 年末にかけてラインが混雑してきた。
- コロナ以前の状態に戻ってきた。
- 半分程度は値上げが結着。2022年1、2月頃から実施。
- お客様と値上げの話をしている一方で、原油が値下がりしている。早めに値上げの話を決着したい。
- 酢酸エチルの供給不安は解消したが、前倒して仕事を発注するお客様が多く、物凄い量の仕事を抱えて年をまたぎそう。ただ、採算ベースでは、フィルムや溶剤は上がっており、まだ値上げが浸透していないので、道半ば。良い数字は取れない。
- 印刷はできるが、原紙が入ってこないという状況にある。
- 値上げはほぼ認めていただいたが、上げ幅はまちまち。
- OPPの入りが悪く、予定が組めない。
- インキと溶剤の値上げを反映できていないので、苦しい。

- Ny、OPP、酢酸エチルの入りが悪くなるというアナウンスをしていたので、例年の2、3倍の受注量。

## 2. 全国グラビア協同組合連合会の新年会

新年賀詞交歓会は中止となったが、2022年1月14日(金)午後より、全グラ理事会終了後、新年顔合わせ会が予定されている。

## 3. 日印産連新年賀詞交歓会

2022年1月6日(木)午後4時30分~6時まで、The Okura Tokyoで開催が予定されている(一社)日本印刷産業連合会の「2022年新年交歓会」について、今回、関グラ協組の出席枠が8名となっているので、出席者予定者を確認した。

## 4. 外国人技能実習評価試験 試験監督者資格取得者の募集の件

上記募集について、進捗報告があった。

## 5. その他

- 村田英雄専務理事の退任、事務局体制変更について
- 富士機械工業(株)和田隆雅取締役会長、令和3年秋の叙勲で旭日単光章受章
- ダミーロールの特許出願
- 供給責任について
- 酢酸エチル問題
- 包装フィルムの値上げ
- 2021年9月印刷の月 記念式典

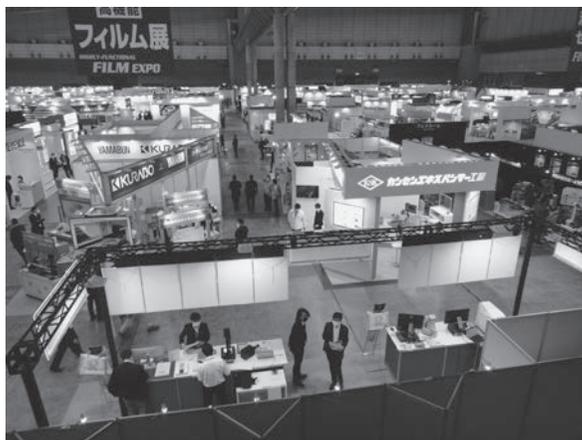


## 組合員・単組の近況

# 大日本パッケージ、グループ会社の日本パッケージング、ベルパックとともに第12回フィルムテック ジャパンに出展

大日本パッケージ(株) (田口 薫社長、埼玉県越谷市平方1004-11) は、昨年12月8日～10日まで、幕張メッセにて開催された「第12回フィルムテック ジャパン (高機能フィルム展)」に、グループ企業の日本パッケージング(株) (湯本雄一社長、埼玉県幸手市上吉羽2100-30)、ベルパック(株) (生関洋平社長、東京都千代田区神田駿河台3-3) とともに出展し、軟包装グラビア印刷の知見や、ドライラミネートの技術を活かしたものづくりの成果を披露しました。全グラ事務局スタッフが同展を訪れ、ブースに立ち寄ってきましたので、ここで報告いたします。

大日本パッケージでは、紙およびフィルムのグラビア印刷を手掛けています。数年前から、新しい試みとして、グラビア印刷の延長線上にある、グラビア塗工技術を生かした、モノづくりを進めています。



大日本パッケージの出展品は次の通りです。  
〈透明導電性フィルム「ダイクレア」〉

PEDOT/PSS (ポリエチレンジオキシチオフェンとポリスチレンスルホン酸の分散体) を主成分とする塗工液を材料・配合技術+塗工技術で、プラスチックフィルムに塗工した透明導電材料。

次のような特徴があります。

- カスタマイズ対応 (表面抵抗率 $30\sim 10^8\Omega/\square$ 、基材、サイズなど) の表面抵抗をカスタマイズ
- 透明性に優れている (基材の透明性を損なわない)
- 全光線透過率: 80%以上 (DC-150以上/光学PET)
- ヘイズ値: 1%以下

- 耐熱性、耐湿性などの環境特性に優れ、高い安定性を保つ
- 耐水性・耐溶剤性を付与できる
- 曲げても割れない  
次のような用途が期待されています。
- 帯電防止  
クリーンブースのパーティション、電子機器の静電気トラブルの抑制、防爆雰囲気での放電防止、保護フィルム
- EMC 対応  
電磁波シールド、電磁波吸収体、選択的広範囲ギガ吸収
- 5G /6G /IoT デバイス用途
- 電子デバイス開発  
タッチパネル用センサー電極、有機 EL ディスプレイ
- フィルムヒーター

#### 〈帯電防止フィルム「ダイクレア AN」〉

界面活性剤を不使用のため、温度変化による影響が少なく、安定した性能を維持できます。また、カーボン練り込み製品と比べ、カーボンの脱落が無く、電子機器・部品等に悪影響を及ぼすこともありません。

グレードとしては、透明汎用PETフィルムを基材とする「NPグレード」、透明性の高い光学PETフィルムを基材とする「KPグレード」、黒色のPETフィルムを基材とする「BPグレード」の3タイプがあります。

#### 〈紙・フィルム機能塗工〉

- |          |                |
|----------|----------------|
| • ヒートシール | • 防滑ニス         |
| • パートコート | • 紙透かしニス       |
| • 撥水加工   | • バリア剤         |
| • 耐水     | • 抗菌・抗ウイルス・防カビ |
| • 耐油工    | • 帯電防止         |

日本パッケージングは、DIC 株の速硬化型無溶

剤ラミネート接着剤「DUALAM (デュアラム)」による加工を紹介していました。

ベルパックは、ラミネートと成形技術とを組み合わせさせて生み出された、防災シリーズ「BOHG」、緩衝バッグシリーズ「STORK」(2017年に第56回ジャパンパッケージコンペティションで経済産業省製造産業局長賞を受賞しています)を展示していました。



## 2021年9月印刷の月 記念式典 (2)

# GP マーク普及大賞の北四国グラフィア印刷、 準大賞の巧芸社、東包印刷が表彰

(一社)日本印刷産業連合会(日印産連)の「2021年9月印刷の月 記念式典」が2021年11月29日(金)午後1時30分より、東京・ホテルニューオータニ「鳳凰の間」において開催されました。20年は、新型コロナウイルス感染拡大により開催が中止となり、21年は9月の開催からは延期され、恒例の講演会・懇親会の中止、入場者数の制限、および表彰者のオンライン参加等、感染対策に配慮した上での開催となりました。今回は経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課の高木美香課長の講演と、第2部のGP環境大賞等表彰式、東京都の小池百合子都知事の挨拶などを紹介します。

### 来賓講話

#### 印刷産業の持続可能な発展に向けて

経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課

高木美香課長

#### 2019年の印刷市場は約5兆円



経済産業省コンテンツ産業課の高木課長

2019年度(令和元年度)に行った「印刷産業における取引環境実態調査」(以下、取引環境実態調査)から、アンケート調査の結果などを紹介しました。

まず、過去30年間の印刷・同関連業の出荷額と事業所数などのデータから、「印刷市場は1991年がピークで約9兆円でしたが、2019年には約5兆円まで減少しています。1年当たりになるとマイナス1.5%、さらにそれを上回る年率マイナス4.9%で事業所数が減少しています。中でも、従業員

9名以下の小規模の事業所の減少幅が大きいという結果が出ています。直近のコロナ以後も含めた印刷製品別の生産金額の推移では、商業印刷、事務印刷が減っています。コロナの影響でイベントや様々な商業関連の経済活動が停滞して印刷物の需要が減った、事務印刷はおそらくテレワークなどで減ったのかと思いますが、一方で証券印刷は15%伸びています。コロナで特需のような業界もありましたし、必ずしもすべてがマイナスではないということです」と説明がありました。

#### 売上成長率、平均値はマイナスに

取引環境実態調査で実施した稼働率のアンケートでは、稼働率が7割を切っているとの結果となりました。2014年の調査時点では稼働率70%以上の事業所が多かったのですが、徐々に減ってきているとのこと。印刷受注単価についても、「変わらない」が回答の半数以上を占めましたが、「1~3割程度安くなった」という声や、中には「原価割れをしている」との回答も見られるとのこと

です。

売上成長率と営業利益率の分布では、小規模でも業界の平均を上回る成長、利益率を達成している企業も一定数は存在していますが、売上の伸び率の平均値はマイナス1.6%、営業利益率の平均値は0.9%という結果でした。

では、どういふことをすれば印刷業でも営業利益率を挙げていけるのか。「1つの方策として、印刷以外の事業に取り組んでいるか、ということがあります。印刷以外の工程も手掛ける事業者の方が営業利益と売上成長率ともに平均値が高く出ています」と高木課長は説明します。

### 印刷産業の目指すべき方向

高木課長は、「印刷産業は印刷出荷額、設備稼働率ともに低迷しています。印刷事業のみではなかなか先が見えません。価格競争が激化し、供給過剰になっているところにさらにネット印刷通販といった事業形態も出てきて受注単価が低迷しています。承継問題もアンケート結果からかなり見られました。そういった中で改善余地はありますが、収益管理、事業企画などが課題となっています。印刷業界が何を指したら良いのか、検討会でも議論いただきましたが、事業領域の拡大、デジタル化への対応、高付加価値サービスの実現といったことが個社の取り組みとして挙げられました。そして、印刷業界全体としては下請取引をどうしたら適正化できるかという課題についても伺っています」と話します。

印刷だけではなくプラスアルファの価値の創出については、地場産業や観光資源のプロデュースや、地場 to C、デジタルも活用した企業のPR・マーケティングを支援する、といったことを挙げました。また、印刷業者をバラバラに発注している発注側に、各社が作った印刷物を自社で全部引き受けてまとめてパッケージしてサービスとして

提供するという、顧客の面倒なところをまとめて対応するフルフィルメントサービスや、需要者の業務IT導入支援といった印刷に紐づくようなものを中心に異なるサービス展開をしている事例があるということでした。

そして、DXも印刷業界にとって重要だとし、「大小多様な特色を持った印刷企業をネットワーク化して、空いている稼働時間を共有する取り組みができないかという話がありました。そうすることで高付加価値情報サービス業に転換し、過剰設備の解消、得意分野への生産集約、協調領域の業務共有化といったことができないかという話がありました」と解説しました。

高付加価値領域へのサービス拡大の例としては、印刷工程の前後を含めた付加価値を提案するイメージだと話します。

「どうしても中小事業者だと、印刷、あるいはその前後の工程のみを自社で担当する形になりますが、大手企業になるとマーケティング・企画から効果測定・分析まで手掛けています。付加価値で言うと、印刷以外の工程の方が付加価値が高くなることもあり、中堅、中小事業者も自社、あるいは他の会社と連携して付加価値の高い領域をカバーできるかが大きな課題ではないかと思っています。

また、印刷業界のDXについては、検討会で出たアイデアを全印工連さんが具体的なプロジェクトとして取り組んでおり、経産省で運営するJ-LOD(コンテンツグローバル需要創出促進・基盤強化事業費補助金)で、印刷の受発注およびデータ入稿業務の生産性を向上させるプラットフォーム『DX-Plax』を開発しました。今年度はこのシステムと様々な会社の印刷機を接続するためのインターフェースソフトウェアを開発しています。これにより、中小印刷事業者の共同受発注業務ができて、全体の稼働率の適正化にも貢献できるの

ではないかと期待しています」

### 下請取引の問題事例

業界全体の課題としては、下請取引の適正化が重要だとし、次のような中小企業庁の取引調査員（Gメン）のヒアリングで出てきた問題事例を紹介しました。「取引対価決定が後指値になっている、製品の不良によりエンドユーザーが被った損害（製品ロス、資材ロス、ライン停止費用、選別費用、固定費ロス、出張費）を下請事業者が負担、親事業者所有の版について保管場所、保管料を下請事業者が負担、親事業者から無償支給された材料の残材の保管料の支払いがない、取引対価の値上げ交渉が困難、運送費、在庫保有費について取引対価に反映されない、購入・利用強制、不当な経済上の利益提供要請、支払条件についてすべて現金とする割合が低い（印刷業平均34.3%）といったデータが上がってきています。こうしたことを是正することが必要だと思っていますので、業界による自主行動計画の策定をぜひ進めていただきたいと思います」。

### 最大1億円の事業再構築補助金を用意

経産省のコロナ対応支援策についても説明がありました。「コンテンツ産業課も含め、経産省は全体的に過去2年コロナ対応に全力を投じています。困っている事業者さんをなるべく多く救えるように、様々な政策を打ち出しています。資金繰り、設備投資、販路開拓、経営環境の整備、給付金、税等の支援策があります。中でも『事業再構築補助金』は、1件当たり最大1億円、総額1兆円、過去に例を見ない規模で用意しています。ものづくり補助金、IT補助金を使っている事業者さんは多いと思いますが、こういった新しい補助金も活用ください」。

最後に、「変異株でまた先行き不透明になりつつ

ありますが、ワクチン接種も進み、少しずつ経済活動が戻ってきている状況ですが、ウィズコロナ、アフターコロナに向かってどのように進んでいくのが皆様の大きな課題だと思っています。そういったテーマで議論を進めてきた集大成が『Change Together』にまとまっていると思いますが、あらゆるビジネスが印刷業のお客様だと思いますが、そういった顧客に向けて何を提供するかという捉え方は様々です。私としては、広く捉えればコミュニケーション産業という見方が出来ると思いますが、この捉え方はそれぞれの会社で追求されていく結論だと思います」とまとめました。

### GP 環境大賞等表彰式

GP 環境大賞は、日印産連の GP 認定制度において、GP マーク表示印刷製品を多く発注したクライアントに授与するもので、GP 環境大賞を過去3回以上受賞した団体に贈られる GP 環境大賞ゴールドプライズ、一般印刷部門、パッケージ印刷部門それぞれを表彰しました。

GP マーク普及大賞は、GP 認定工場の中から最も GP マーク表示件数が多く、GP マーク普及に貢献した、オフセット印刷、グラビア・シール・スクリーン印刷部門、製本・表面加工部門の3部門の GP 工場に授与するもので、グラビア印刷部門では、大賞を受賞した㈱北四国グラビア印刷、準大賞を受賞した㈱巧芸社と東包印刷㈱が表彰を受けました。

GP 資機材環境大賞は、GP 資機材認定制度に参加し、GP 資機材認定製品を最も多く登録しているメーカーに印刷工場の環境負荷低減に寄与したものと授与するもので、機材部門と資材部門を表彰しました。

受賞者を代表して、東京都三鷹市と㈱タカラトミーから謝辞が述べられました。



表彰状を受けとる北四国グラビア印刷の奥田社長



日印産連の藤森会長、小池都知事と GP マーク普及大賞・準大賞を受賞した皆さん

## 東京都三鷹市 河村 孝市長



河村三鷹市長

三鷹市は、市民、事業者、市が一体となって共同の町作りを進めています。その象徴としてGP環境準大賞をいただいたのかなと思います。まさにワンチームで、現在の地球環境問題解決のために努力しなければならないと思っています。考えてみれば、日本全体が新型コロナウイルス問題にワンチームになって取り組んできて、今や世界の中でも感染者が抑制されてきている国だと思っています。地球環境問題もこのように事業者、地域社会の皆さんが一体となって取り組んでいけば、しっかりと日本独自の解決方法で取り組めるとしています。これだけの皆さんが今日、賞をもらって帰る、それがまた日本全体、地球全体の問題解決に向けての大きな力になると確信しています。そうはいつても三鷹市はまだまだ不十分だと思っています。今日の準大賞を契機に、もっとがんばれと背中を押されているのだと思います。これを機に、私どももがんばりますので、皆さんも一緒になってがんばりましょう。

## 株タカラトミー 高林慎享氏



タカラトミーの高林氏

当社はおもちゃ会社で、創立は1924年。2024年に創立100周年を迎えます。タカラトミーグループとしては、玩具事業と玩具周辺事業を主な事業としています。おもちゃ会社でも昨今はSDGsなど持続可能性が重要なテ

ーマになっており、私達もサステナビリティビジョン「世界中の子どもたちと友だちになる」を目指して、その実現に向けた取り組みをスタートしています。当グループのサステナビリティは事業活動を通じて社会課題の解決を図ることです。例えば、目や耳に障害があるお子様も一緒に遊ぶことができる共有玩具があります。1980年から取り組みを開始し、今では当社だけではなく、玩具業界全体での取り組みに拡大しています。また、おもちゃで初めてのエコマークを取得、併せて環境配慮したエコトイの開発に取り組んでいます。ほかにも人生ゲームを通じてSDGsを学ぶ授業プログラム、みんなで作るSDGs人生ゲームを日本全国の学校で実施しています。

印刷物への取り組みということでは、お客様に店頭で配布する「リカちゃんカタログ」、株主様へ配布する株主通信にGPマークが付いている印刷物を採用しています。今回の受賞はこのような取り組みを評価いただいたものと思っています。リカちゃんカタログは1967年のリカちゃん発売当時の商品に同封されていた1枚のリーフレットから始まり、今では商品の説明だけではなく、プロフィールや占いなど読んで楽しい情報を詰め込んだカタログで、子供たちに愛され続けています。アンケートからも、前のカタログも捨てずに持っている、カタログのリカちゃんを切り取って冷蔵庫に貼っている、あみだくじや塗り絵が楽しいなど、子供たちにとって紙に印刷されたカタログは切ったり、書き込んだりして遊べますし、また自分が好きな時に見ることができる、想像力を膨らませる大切なツールであると期待して継続して取り組んでいます。

子供たちが見る印刷物に環境配慮したGPマークが表示されているということは、子供たち、その親御様にも印刷物の環境配慮を知るきっかけ作りとして、我々のような企業が取り組むことが極

めて大事だと、改めて認識しました。今後も持続可能な社会の実現を目指して、一歩ずつ進んでまいりますので引き続き、皆様のご支援等をいただければと思います。

## 来賓祝辞

### 東京都 小池百合子都知事

このたびは、GP 環境大賞を頂戴しましてありがとうございます。今回で3度目の受賞となりました。東京都の印刷物における環境配慮の取り組みを評価いただいたということで大変うれしく思います。

また、大東京、1,400万人の都民の新規陽性者数がようやく1桁にまで下がって、重症者の方も1桁に抑えられているということで、都民の皆様方、事業者の皆様方、そして医療従事者の皆様方に感謝申し上げます。今日も皆様、マスクをしておられ、こうした公衆衛生に対しての高い意識によってコロナをここまで抑えることができたこと、また、ワクチン接種率も東京都でも12歳以上の人口のうち、2回目も打ち終わった方が80%を超えている状況です。それなのに、新たな変異株の出現ということで、先ほどちょうど岸田総理のところに向かわれて、水際対策をよろしくね、とお願ひしてきたところですが、また引き続き、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

東京都は、コロナ禍の後、ただ元に戻るのではなく、サステナブルリカバリーを目指しています。COP26やグリーンファイナンス、ESGといった流れが大潮流となっているところです。それに加え、昨今は原油価格の高騰に加えて円安と、皆様方の業界にとっては厳しい状況かと思ひます。

一方で、GPの流れも潮流になっているかと思ひます。東京都として様々な日常時業務で環境負荷低減に努めるということで、環境配慮型製品な

どの市場拡大を目指しております。都民、事業者の皆様方の行動を喚起し、持続可能な社会の実現に寄与していくことを心掛けています。GP認定制度も平成18年に制度を創設してから、15周年を迎えたところですが、認定工場数は425になったとお聞きしています。さらに発展、浸透してより多くの事業者の皆様に取り組みが広まることを期待しております。

ちょうど、環境大臣のときに、VOC対策ということで、皆様方にご協力をお願いし、印刷業界を取り巻く様々な課題に地元の皆様から色々なお声を直接いただき、印刷業は東京の産業だという意識で、皆様方とともに歩んできたと思ひます。

ちなみに、東京都ではクリアファイルを紙製に変えました。都庁のクリアファイルの消費もばかになりませんので、少しずつですが、小さなところから、また大きな観点で進めていく上でも日本印刷産業連合会の皆様方との連携が必要だと感じています。表彰式参加の各団体の皆様方、サステナブルな社会の実現に向けて、これからも力を合わせて歩みを進めて、印刷はやはり日本だね、東京だねと、言われるようにがんばって発展して参りましょう。本日は誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

## 閉会挨拶

### (一社) 日本印刷産業連合会 滝澤光正副会長



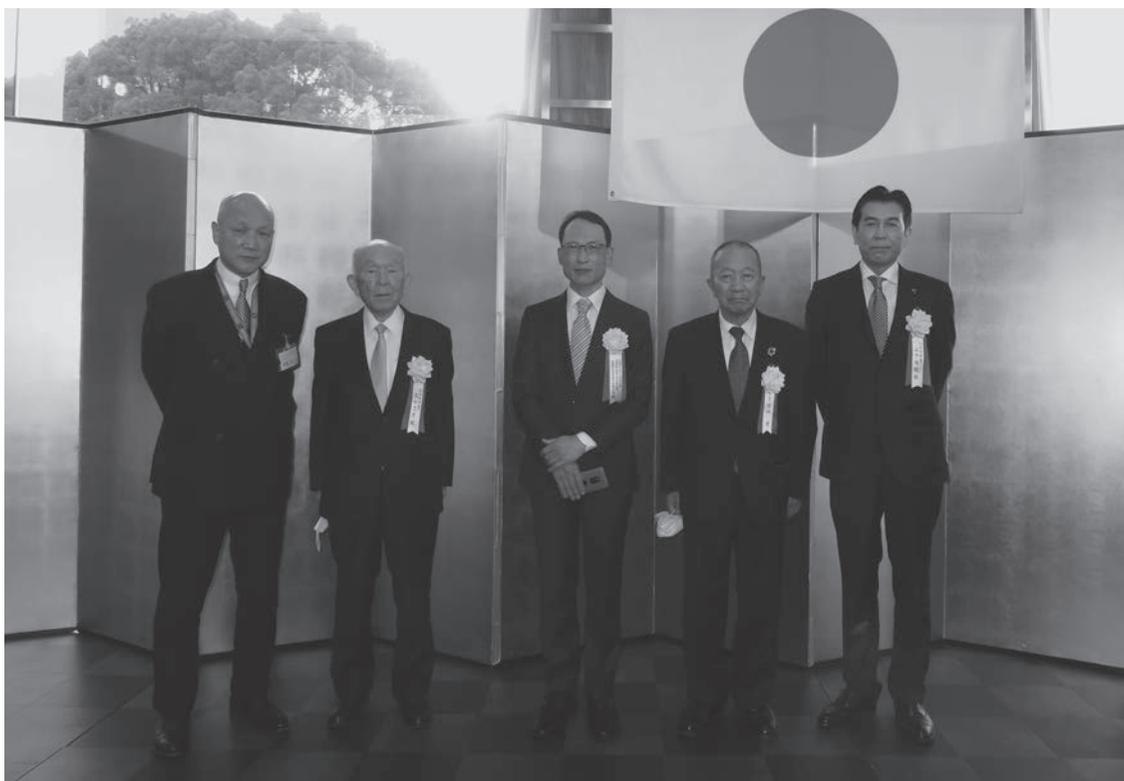
日印産連の滝澤副会長

経済産業省様をはじめとした多くのご来賓の皆様、そしてご出席の多くの皆様のおかげ様をもちまして、2021年9月印刷の月、記念式典の予定されていた次第はすべて滞りなく終えることができました。また、本日、各

種表彰を受けられた皆様方、本当におめでとうございます。心からお慶び申し上げますとともに、これまでのご功績、取り組みに対しまして、深く感謝を申し上げ、敬意を表するものでございます。

これまで登壇された皆様から様々なお言葉を頂戴しました。やはり、印刷産業はこのままでは厳しい、SDGs や環境と社会の新たな要請に応えるべく、そして印刷業から高付加価値、情報コミュニケーション、サービス産業への転換を図らねばならないという言葉を数多く頂戴しました。むしろ、10団体それぞれ日頃から自社の活動を通じて、深くそういう状況を認識しているところです。日

印産連としても昨年から続くコロナ禍において、活動に様々な制約を受けました。本年の印刷の月も2年ぶりの開催となり、また今年はGP 関連大賞と併せて3つの表彰を同時に行うという体裁を取りましたが、関係各位、ご列席の皆様のお陰様を持ちまして、無事に終えることができました。今後も私たち印刷に携わるものとして、これからの日本社会において経済発展、そして国民の文化、生活の向上に少しでも役立つ産業として引き続き、貢献できるように皆様とともに励んで参りたいと思っております。



最後に記念撮影。左から、熱技術開発の遠藤良行会長、印刷振興賞を受賞した同・高松忠彦監査役、印刷産業環境優良工場表彰日印産連会長賞を受賞した平野屋物産の母里圭太郎社長、全グラの田口 薫会長、印刷功労賞を受賞した巧芸社の山下雅稔社長